



希望の鐘 *The Bell of Hope*



The Y's Men's Club of Kawagoe

〒350-0046 川越市菅原町7-16

tel : 049-226-2491 fax : 049-226-2304

c/o Kawagoe YMCA、7-16 Sugawara-cho、Kawagoe、Saitama 350-0046 Japan

川越ワイズメンズクラブ会報

No. 18-3

9月号

発行 2016年9月15日

Chartered 1998

会長	吉野 勝三郎	クラブ会長主題	「東日本区大会を成功させよう！」
副会長	林 京二	国際会長主題	「Our Future Begins Today 私たちの未来は今日より始まる」
	松川 厚子		
会計	山崎 純子	アジア会長主題	「Respect Y's Movement ワイズ運動を尊重しよう」
書記	森下 千恵子	東日本区理事主題	「For the Future, Act Today 明日に向かって、今日動こう」
		関東東部部長主題	「組み合わせられ、結び合わされて、造り上げられてゆく」

9月

一つの部分が苦しめば、すべての部分が共に苦しみ、一つの部分が尊ばれれば、すべての部分が共に喜ぶのです。(コリントの信徒への手紙1、12章26節)

And if one member suffers, all the members suffer with it; or one member is honored, all the member rejoice with it.(1 Corinthians 12:26)

2016年8月の統計 (8月26日)

在籍 11名 出席者 4名 (メーキャップ 2名)
出席率 60%

9月例会のお知らせ

日時：9月30日(金) 午後7:00

※一度6:00と連絡しましたが、YMCAの部屋が空かないので、この時間とさせていただきます。

場所：埼玉YMCA川越センター2F

- 議題：1. 今後の例会の日程と内容
特に、インビテーションキャンペーンによる会員増強と、12月例会を“ユース例会”とすることについて。
2. 東日本区定款変更の件
 3. 区大会準備状況の報告
 4. その他

今月は、スタートが遅くなりますが、ゲストなしで川越クラブメンバーだけの例会ですので、多くのメンバーの出席を期待します。

8月例会報告

吉野 勝三郎

今回は、「埼玉3クラブ合同例会・納涼例会」として、8月26日(金)川越センターで開催しました。忙しい中、講演を引き受けてくれた、小谷全人埼玉YMCA総主事、埼玉クラブから出席してくれた、上松寛茂会長、衣笠輝夫メン、水無瀬隆造メン、所沢クラブの大澤和子メン、小関京子メンに深く感謝します。所沢クラブの東祐二メンは、納涼会に駆けつけてくれましたし、川越クラブの牛村永代メンは、何と、カナダ・バンクバーからの帰途、例会に直行して、納涼会にも参加してくれました。多くのワイズメンの情熱とワイズダムを感じる例会となりました。

事前にお知らせしたとおり、今回は、今年4月1日に就任した、小谷全人総主事から、埼玉YMCAの現状と課題を話してもらいました。

1. 埼玉YMCA6代目の総主事であること。
2. 総主事就任直後から、所沢地区のキリスト教会との連携を強めるため、自分から、各教会に就任挨拶に出向くつもりでいたところ、6月に、2016年の第24回所沢市民クリスマス実行委員会から出席依頼があり、一気に市内23のキリスト教会との縁ができ、大いに喜んでいる。さっそく、今年の市民クリスマス実行委員会の書記を引き受けた。今年は、アグネス・チャンを特別ゲストとして呼んでいる。
3. チャリティーラン、国際フェスティバル、こぼと児童館などの活動を通して、所沢市とは良い関係ができています。この関係を維持・発展させていきたい。因みに、小谷総主事は2011年から、所沢市に住居登録している。
4. 何人かの退職・就職者があって、業務担当も変更し、組織を整理・整頓した形で、4月1日か

ら新体制が始動した。今後は日本YMCA同盟が進めている、YMCAのブランディング戦略などを十分に参考にして、埼玉YMCAの中期計画を立てて行きたい。

5. 当面は、財政基盤の確立を優先している。
6. NGネットワークや青少年協議会など、他団体の理事でもあるので、これらの団体との関係も大切にして行く。
7. 2017年2月17日～28日には、フィリピン・ワークキャンプを催行する。

これら、すべての活動に対して、埼玉県内の3ワイズメンズクラブには、大きな支援をしていただき感謝している、との話をさせていただきました。これからも、埼玉YMCAを積極的に支援して行きましょう。



第20回東日本区大会実行委員会準備委員会

松川厚子

9月2日にウエスタ川越で行いました。今回は、利根川理事、大澤、小関、衣笠、吉野、吉田、松川のいつものメンバーに、川越クラブから鎌田さん、山崎さんが加わり、プログラムの内容を詰めていきました。

晩餐会は一人8000円。弁当は、一人850円でお茶付き。1テーブル10人でケータリング手配(鎌田さん)。アトラクションは浅菜裕文他にお願いする予定

。ポロシャツ・袋手配(吉田さん)は、デザインまで決定する。

記念品は、芋の子作業所に山崎さんから依頼してもらい用意する。

オープニングセレモニーは、お囃子、木やりをやることにする(鎌田さん)。

これらの予算案の再検討を栗原さんに依頼することにする。

写真はアマチュアを捜し、広報の吉野会長が無料の場所にチラシを置くことにする。

また各プログラムは司会者の衣笠さんの案を基に

検討する。

その他JTBホームページへの公開日時をJTBに確認することになり、私松川が、JTBに連絡したところ、2月1日に公開ということで進行しているとのことなので前倒しを依頼すると、OKの様子。利根川理事に報告すると、次回委員会でJTBに説明してもらうとのことでした。

今後共皆様のご協力をお願いいたします。

北海道部会・十勝クラブ40周年記念

吉野 勝三郎

8月27日(土)の会合には、川越クラブから、利根川恵子東日本区理事、山本剛史東日本区書記、吉野勝三郎会長の3名が参加しました。時間の関係で、部会は欠席となりましたが、十勝クラブの40周年は、盛大かつ印象的でした。特別講演は、京都ウエストクラブの森田恵三メン。40年前に十勝クラブをチャーターした時から今日まで見守ってこられた愛情溢れるメッセージと、長年のワイズメン活動の経験を通しての会員増強のありかたを熱く語られました。

今回は、十勝クラブとIBC関係にある台北ダウンタウンクラブから24名が、又DBCの京都ウエストから16名、更に江東クラブからは会長他が参加され、にぎやかな会合となりました。プログラムの最後には、台湾の音楽と舞踊に合わせて、参加者全員が輪になって踊り、大いに盛り上がりを見せました。



区大会のPRは、まず、遠路はるばる来られた西日本区の方々のPRに続いて、川越大会をPRすることができました。壇上にいるのは、向かって左端は元国際会長藤井寛敏メン、右端は現北海道部長の山本雅之メンです。私は、今年の台北国際大会のT-シャツを着用して参加しました。因みに、この写真は、今期関東東部部長の片山啓メンの撮影です。



しかし、皆さんご存知のように、その直後の台風で、十勝地方の特産物であるじゃがいもやたまねぎに甚大な被害があり、避難生活を余儀なくされている人も多く、十勝地方だけでなく北海道内あちこちで交通網が寸断され、JR北海道の根室本線の復旧の目処はたたないという情報に心が痛みます。その後の状況については、情報が入る都度、お知らせします。

第72回ワイズメンズクラブ国際大会に参加して

— 道中記その2 —

吉田公代

8月5日(3日目)9時から大会プログラムが順調に進み、11時からは、BF代表として、紹介されました。お昼をはさみ、分科会に分かれての参加となり、川越クラブ3人レディは、メネットのフォーラムに参加しました。台湾式のお茶のセレモニーで歓待を受け、ゆったりとした雰囲気サービスされるお茶は、格別でした。

そして、大会会場が移動に伴い、超高級ホテルから、普通のホテルに移動、IPEナイトは、そのホテルから5分位歩いた所にある、EXPO DOMEで行われました。

開放的なDOMEでは、一テーブルに10のジュース、常温のビール、濃厚な料理、これでもかと思わざる品数と量の多さ、そして、冷房の寒さにびっくりです。だから、常温のビールなのかな?(笑)催し物もたくさんあり、日本からは、東日本大震災で被災されそして見事に乗り切った石巻広域クラブの西村富子さんが紹介され、全員で「花は咲く」を歌いました。賑やかな楽しい時間が過ぎました。

8月6日(4日目)は、午前中は、Report for フォーラムがあり、その後同敷地内で開催されているCs Bazaarを見学。午後から分かれてエクスカージョンに出発しました。

川越クラブの最強4人レディは、お寺周りに参加し、ボランティアの方の説明付ガイドにより、また暑い暑い観光をしました。そして、IPナイトです。中央にダンスホールが出来、有志たちはダンスを楽しんでいました。今回はビールが冷えていました。

8月7日(5日目)大会最後の日です。台北YMCA聖歌合唱団の第9交響曲喜びの歌の大合唱、まさに、圧巻でした。

お別れするとき、両サイドを台湾区の実行委員が、花道を作ってくださりの退場となりました。台北を後にして、私たちツアーは、陶磁器の町鶯歌と三峡老街へ向かいました。

どちらも、お土産屋さんが立ち並び、古い街並みで、ウィンドウショッピングを楽しみました。台湾最後の夜は新竹泊まり、夕食後夜店探索をし、お土産をゲットして、終了しました。

8月8日(6日目)バスにて、台北市へもどり、行天宮を見学し、飲茶のお昼を頂き、最後のお買い物を楽しみ、帰路に飛行機に乗り込みました。

日本の川越という地域で、ワイズの活動をしているのが、今回の国際大会で、大きな世界を見ることができ

き、感じることができ、一人の力は限界があるけれど、世界は面白いと感じました。

とにかく、暑くて暑くて、そして久しぶりの団体旅行、どうなることかと思いましたが、重厚な諸先輩方々に見守られ、そして台湾区の熱烈フレンドリーな対応に心温まり楽しい時間を、過ごすことが出来ました。

「体力アップ」「なんでも食する」「歳だと思わない」「穏やかに」今後の私の課題です。

ちなみに、今回ジャパンエンタープライズツアーの平均年齢は、71歳でした。すごい!



YMCA 報告

<ユースボランティアフォーラムが開催されました>

9月9日~11日、東京YMCA山中湖センターにてワイズメンズクラブ主催のYVLF(ユースボランティアリーダーズフォーラム)が開催されました。埼玉YMCAからは4名のリーダーが参加し、川越センターからは木下遥七さん(あーるリーダー)が参加しました。リーダーより、以下の通りご報告させていただきます。

~ 1日目は、アイスブレイクを含む全体プログラムを行い、楽しみながら他YMCAのリーダーと仲良くなることができました。2日目の午前中は講師の青山さんの話を聞き、【関わること】【遊ぶこと】【考えること】について迷い、学びました。午後にはビッグカヌーを行いました。そこで、カウンセラーの名前でかけ声をかけ合い、協力し、自然体験ができました。私にとって3日目の発表に向けてのグループタイムで仲間とたくさん語り合えたことが良い経験になりました。自分と違う考えにたくさん触れたことで視野が広がり、良い経験になりました。ご支援いただき、ありがとうございました。

木下遥七 2年
リーダー歴1年2
か月 (あーる)
~



<第19回 チャリティーゴルフが終了しました>

公益財団法人 埼玉YMCA

第19回 チャリティーゴルフのご報告



皆様からお預かり致しました支援金は、次のプログラムに大切にに使わせて頂きます。

▼ 高齢者の居場所づくり支援

▼ ユースボランティアリーダー育成

開催日：2018年9月12日(月)
場 所：嵐形パークカントリークラブ
参加者：56名
支援金：343,080円(2018年9月18日時点)



参加者の皆さま、ご協力くださいました団体・企業・個人の皆さま
温かなご支援 ありがとうございます。

675m)の短冊形に区画、一戸当たり約5町歩(15,000坪)に配分していて、一区画の内訳は道路側に家を建て、その外側を畑とし、さらにその奥を秣場・山林ヤマと呼ばれた雑木林)としています。痩せた土地には堆肥が必要で、そのための落葉の供給と、薪の原木としてコナラ・クヌギさらには建築用材としてのアカマツ等と生活に密着した二次林が形成されることとなります。それらの雑木林がああ美しい緑の地区を作っているのですね。わが川越クラブのチャリティー紅あか芋もここで作られています。

三富新田の歴史について語ると長くなりますので興味を持たれた方は県のホームページ等をご覧いただければと思います。私としてははまず三富新田に行って美しい自然のようで整然とした緑の風景を味わっていただきたいと思います。

C. M

<ご協力のお願い>

10月2日(日)「アースディ・イン・川越」に川越センターの放課後等デイサービスに通う子ども達(中高生)がスタッフ(河合・久篠)と共に参加します。当日は、ワイズメンズクラブのリサイクルバザー等のお手伝い等もさせていただきますと思っています。呼び込み、シフト管理、準備や後片付け等、社会的な体験活動の場として子ども達が学べるよう、皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

==== 編集後記 =====

～ 川越 こんなところ～「三富新田」

川越には「川越城」「時の鐘」「蔵造りの町並み」等々観光名所が数多くありますが、ここでは穴場といひましようか、独断と偏見による、つまり私のお気に入りをご紹介しますと思います。

「三富新田」が川越かどうか、現在の行政区では三芳町と所沢にあるのですが、川越藩の開拓による元祖エコロジー循環型農地ということで紹介したいと思います。

武蔵野台地のローム層(火山噴出物の風化物)が厚く堆積した痩せた土地を川越藩主・柳沢吉保が元禄7年(1694)に開拓に取り掛かったのが、川越南5～6キロに位置するこの三富新田(さんとめしんでん)だそうです。

三富新田は、上富・中富・下富の三地区の総称で、現在の上富は埼玉県入間郡三芳町に、中富・下富は所沢市に属しています。都市化の進む所沢市側の中富・下富地区と比べると、上富地区は開拓当時の地型がかなり保たれていて、貴重な当時のおもかげを残している。

上富地区を初めて車で通ったとき、整然とした緑が濃い自然の美しさに「ここは何なの?」というのが三富新田というものを知った最初でした。

ここ三富新田は主軸に4～6間幅の道路を開き、この道路両側に間口40間(約72m)、奥行375間(約

